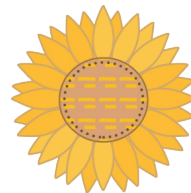




ひまわり



家屋評価について

茨城県立医療大学付属病院
理学療法科 内田 智子

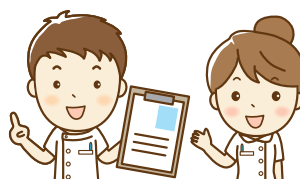
◎家屋評価って何？

家屋評価とは、入院患者さんの自宅を病院スタッフが訪問して、患者さんが家の中を移動したり、家事をしたりすることができるかを直接確認する作業です。必要な場合には、住宅改修や福祉用具の導入、介助方法などの提案も行います。

病気やケガをした患者さんは、体のまひや体力の低下などで、以前と同じように体を動かせなくなることがあります。入院中のリハビリテーションでは自宅を想定した動作練習を行いますが、病院と自宅では環境の違いがあります。その違いによって、「退院してみたら、想定した動作ができなかった」とならないために、家屋評価を行います。

◎実際の家屋評価の進め方は？

家屋評価ではおおまかに3つの流れで行われます。



①評価までの準備

まずは患者さんの生活の様子を、病院スタッフ（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士など）が確認します。入院時からの状況を踏まえて、家屋評価の必要性や実施する時期について、患者さんと一緒に話し合いを行います。

家屋評価の実施が決まったら、病院スタッフは事前に家屋状況を聞いたり、家屋写真を見たりして

情報を集めて、患者さんが自宅でどういう風に日常の動作を行ったらよいかを考えます。そして、リハビリテーションの時間や入院生活の中で、動作の練習と実践を重ねます。

例えば、入浴時に浴槽への出入りが難しい場合、まずは自宅の浴槽の形や配置を想定して、作業療法で浴槽の出入りを練習し、理学療法では筋力強化を行います。このようなリハビリテーションを重ね、動作ができるようになってきたら、病棟での入浴時間に浴槽の出入りを行うようにしていきます。



②家屋評価の当日

評価当日は、患者さんや家族関係者、病院スタッフ、ときには退院後に関わるケアマネジャー、福祉用具業者、建築業者などが参加します。

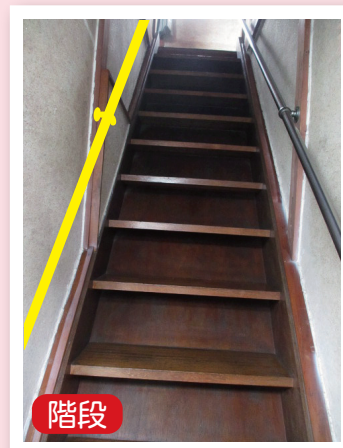
自宅に着いたら、家屋環境（玄関や敷居の高さ、階段、トイレ、浴室、駐車場からのアプローチ、自宅周辺など）を病院スタッフが確認後、患者さんが実際に動いて、練習した動作ができるかを評価します。

自宅に行ってみると、想定外のことが起きる場合もあります。「ここの壁は手すりをつけられない」「意外と狭くて予定した福祉用具が置けない」という事態になったときには、その場で別の手段を考えます。

ここで、実際の家屋評価の様子をご紹介します。



- 立って浴槽をまたぐのは難しいので、バスボード(①)を使って座りながら入る予定。
→自宅の浴槽でも使えた！
- 体を洗うときにシャワーチェア(②)も使う予定。
→浴室のスペースに置けた！



- 2階が寝室だけど、急な階段で危険。右手しか使えないのに、手すりが片側しかなく、降りる時には手すりが左手側になってしまう。→反対側にも手すりをつけて、上り下りをより安全に。



- 靴の脱ぎ履きに椅子を使いたいけど、置いてみたら、なんだか玄関が狭い。
→自宅にあった踏み台を、上がり框に置いたら、靴の脱ぎ履きが座って行え、スペースも広いまま。



- 駐車場から玄関までの砂利道は、足が不安定になりやすいかも…
- 玄関前の階段は手すりをつけた方がいいだろうか…
→実際に歩いてみたら出来た！

③評価の実施後から退院までの準備

患者さんは、確認してきた動作方法をさらに練習し、強化していきます。また、住宅改修や福祉用具の準備が必要な場合は、退院日に向けて手続きや作業を進めます。

自宅の準備を整えながら、患者さんには外出や外泊練習で自宅で過ごすことに少しずつ慣れてもらいます。退院後の生活に向けて、体や環境、気持ちの準備もできるように、病院スタッフは援助していきます。

★家屋評価は退院後の生活を円滑に送るためのリハビリテーションのひとつです★

三笠宮彬子女王殿下が本院を御視察されました



三笠宮彬子女王殿下におかれましては、令和元年9月29日（日）に、本院をご視察なされました。

茨城県立医療大学において、永田博司学長から大学の概要について説明を受けた後、付属病院において、岩崎信明病院長から病院の案内を受けるとともに、水上昌文副学長の説明により、装着型サイボーグ HAL[®]を御覧になりました。



装着型サイボーグ HAL[®]とは

HAL[®]はサイバーダイン社（茨城県つくば市）が開発した装着型サイボーグです（右写真）。8種類の神経・筋難病において、「HAL[®]医療用」を装着して歩行運動を繰り返すことによる歩行機能改善効果が 治験（臨床試験）により証明され、平成27年11月薬事承認、平成28年4月公的医療保険の適用が認められた高度先端医療機器です。

外壁工事のお知らせ

病院管理課

開院24年目となる医療大学付属病院の建物は、長年風雨にさらされたことから、外壁タイルにひび割れなどが発生していました。

そのため、患者さんの安全確保を図るべく、外壁タイルの崩落防止のための第1期補修工事（令和元年12月～令和2年3月）を実施しました。来年度は引き続き建物の東側・北側（後側）の第2期補修工事を行います。

工事期間中は足場とシートで工事箇所の外側が覆われますが、入院・外来診療とも通常通り行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



（写真は第1期工事のもの）

茨城県立医療大学付属病院の理念

患者さん本位の、
安全で良質なリハビリテーションを中心とした医療を行い、
患者さんが住み慣れた地域で、
安心して、その人らしく生活できるように支援します。

●基本方針●

- 1 患者さんの尊厳を第一に考え、安全で信頼性の高い医療を行います。
- 2 より良いチーム医療を行い、質の高い医療を提供します。
- 3 先進的なリハビリテーション医療の開発と実践を通して社会に貢献します。
- 4 県内リハビリテーション医療のレベル向上に努めます。
- 5 医療人としての誇りと、豊かな人間性を持った医療専門職の育成に努めます。
- 6 健全な経営に努めます。

医療機関のみなさまへ

◆◆◆ 画像診断サービスのご案内 ◆◆◆

当院では、画像診断サービスを地域の皆様に提供しています。リハビリテーション関連の疾患に限らず、画像診断に関することは広くご相談に応じます。

※他の医療機関の医師からの紹介が原則です。

～検査内容～

- ・一般X線撮影
- ・X線骨密度測定
- ・CT検査
- ・核医学検査
- ・MRI検査
- ・超音波検査

●本サービスを希望される場合は、医療機関からの電話による予約が必要となります。

TEL：029-888-9213

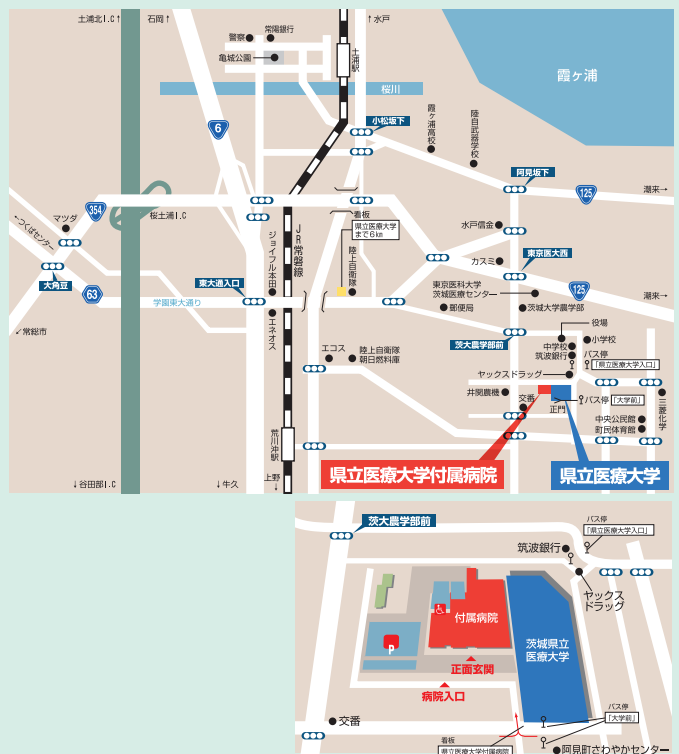
FAX：029-888-9274

詳しくはホームページをご覧ください。

～平成30年度診療実績～

- 延外来患者数 23,163人
(1日平均 94.93人)
- 延入院患者数 36,578人
- 新入院患者数 502人
- 退院患者数 511人
- 平均在院日数 71.21日

当院へのアクセス



●鉄道・バスをご利用の場合

J R常磐線 土浦駅または荒川沖駅で下車

□土浦駅（西口）からバスで約25分

「阿見中央公民館」で、

「県立医療大学入口」下車、徒歩約8分

□荒川沖駅（東口）からバスで約25分

「県立医療大学行」で終点下車、徒歩約3分

●お車をご利用の場合

□常磐自動車道「桜土浦IC」より約25分



茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>

